

メッセージ 6

時代の務めにしたがった、

今日の真理（神の永遠のエコノミーの最高の福音）を認識し、普及させる

聖書：Ⅱペテロ 1:12. Ⅰテモテ 1:3-4. マタイ 16:18.

サムエル下 7:12-14 前半. ローマ 1:3-4. 啓 21:2, 9-10

I. 神が一つの時代に行なっている特別な回復と働きが、その時代の務めです。時代の務めは、神の民に現にある真理を供給します。Ⅱペテロ第1章12節の「現にある真理」は、「今日の真理」とも訳すことができます：

- A. すべての真理は聖書の中にありますが、人の愚かさ、不忠信、怠慢、不従順を通して、多くの真理が失われ、人から隠されました——参照、列王下 22:8。
- B. 新しく啓示された真理は、神の新しい発明ではありません。そうではなく、それらは人の新しい発見です。主のあらゆる働き人は、現にある真理が何であるかを、神の御前で尋ね求めるべきです。
- C. 神の真理は蓄積されていくものです。後の真理は先にあった真理を否定するものではありません。わたしたちが今日、見ているものは、神の啓示の蓄積です。
- D. どうか神がわたしたちに恵み深くあって、わたしたちが「現にある真理」の落伍者となることはありませんように。どうかわたしたちが目を覚まして、肉に入って来させたり、自己に何らかの立場を得させたりすることがありませんように。

Ⅱ. 神がわたしたちにこの時代の務めを通して与えられた、現にある真理、神聖な啓示の最高峰は、神の永遠のエコノミーに関する啓示です。神の永遠のエコノミーに関する福音は、「父祖に対してなされた約束の福音」（使徒 13:32）です。この約束とは、ダビデの子孫が神の御子になるということ、すなわち、人の子孫が神聖な御子になるということです（22-23, 33-34 節. 26:6, 16-19. サムエル下 7:12-14 前半. ローマ 1:3-4. マタイ 22:41-45）：

- A. わたしたちは、人が理解できるとわたしたちが思う水準にまで引き下げた福音を宣べ伝えるべきではありません。わたしたちは、引き上げられた福音を宣べ伝えるべきであって、決してその概念を引き下げるべきではありません（Ⅰテサロニケ 1:1, 3-4, 10. 5:23. Ⅰコリント 2:7-13）。人の中には神が創造した能力があって、人が神の事柄を受け入れ、理解することができるようにすることを、わたしたちは信じなければなりません（ヨブ 32:8. ゼカリヤ 12:1. 伝 3:11. 使徒 17:26-29. イザヤ 43:7）。
- B. わたしたちは全聖書にしたがって、項目ごとに神の永遠のエコノミーに関する真理を提示しなければなりません。これが、わたしたちに対する主の特別な委託です——Ⅰコリント 1:9. 9:16-17, 23. Ⅰテモテ 1:3-4. 2:7. 4:16. Ⅱテモテ 1:11. 2:2, 15. コロサイ 1:28。

Ⅲ. 「ダビデの子孫が神の御子になること」は、キリストが復活によって神の長子と明示される過程について語っています——ローマ 1:3-4：

- A. パウロは、自分は神の福音へと選び分けられたと言いました。この福音は、神の御子に関するものです。これが示していることは、神の福音とは、子たる身分の福音であって、キリストのからだの実際のためであるということです——ローマ 1:1,

3-4. 8:28-30. 12:5。

- B. ローマ第1章3節から4節は、サムエル記下第7章12節から14節前半の予表における予言の成就であり、一つの奥義を明らかに示しています。それは、神が人と成ったのは、人を神格においてではなく、命と性質において神とするためであるということです。
- C. キリストは、彼の神性において神のひとり子でしたが（ヨハネ 1:18）、肉体と成ることによって、神性とは何の関係もない肉体、すなわち、人の性質を着ました。彼の人性において、彼は神の御子ではありませんでした。
- D. 復活において、キリストの人性は神化され、息子化されました。その意味は、彼が彼の人性において神の御子と明示されて、神の長子となり、神性と人性の両方を持ったということです——ローマ 8:29。
- E. こういうわけで、キリストにおいて、神は人の中へと構成し込まれ、人は神の中へと構成し込まれました。そして神と人は共にミングリングされて、一つの実体、すなわち、神・人となりました。
- F. 神のエコノミーにおける神の福音と神の意図は、神を人の中へと建造し込み、人を神の中へと建造し込むことです。この建造は、神が人（ダビデの子孫）と成って、人が神となること（明示された神の御子）です——ヨハネ 14:23. 15:4-5. ローマ 1:3-4。
- G. この福音が主イエスによって語られたのは、彼が次のように語ったときです、「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ」——ヨハネ 12:24 :
1. もし、種が土壌に埋められて死ぬなら、それは最終的に復活の中で発芽し、成長し、開花します。なぜなら、種の命の活動が、その死と同時に活性化されるからです——I コリント 15:36. I ペテロ 3:18。
 2. キリストの中の神性、すなわち、聖別の霊は、彼の死において活動しました。そして復活において、彼は「開花し」、神の長子また命を分与する霊と成って、彼の神聖な命をわたしたちの中へと分け与え、わたしたちを彼の多くの兄弟たちとしました——ローマ 8:29. I コリント 15:45 後半。
 3. 原型は神の長子です。複製は神の多くの子たち、すなわち、原型の肢体たちであって、彼らは彼のからだとなり、新エルサレムにおいて究極的に完成します——コロサイ 1:18. I ペテロ 1:3。

IV. 「ダビデの子孫が神の御子になること」は、わたしたちが復活によって神の多くの子たちと明示される過程について語っています——ヘブル 2:10-11 :

- A. キリストはすでに神の御子と明示されました。しかし、わたしたちは依然として、明示される過程、すなわち、息子化され、神化される過程にあります——ローマ 8:28-29。
- B. 神の御子の命は、わたしたちの霊の中へと植えられました——ローマ 8:10 :
1. 今やわたしたちは、地にまかれる種と同じように、死と復活の過程を経過しなければなりません——ヨハネ 12:24-26。
 2. このことは、外なる人を消耗させます。しかし、それによって内なる命は、わた

私たちの内側から成長し、発展し、究極的には開花します。これが復活です—— I コリント 15:31, 36. II コリント 4:10-12, 16-18。

C. 復活の中で、キリストは彼の人性において神の御子と明示されました。このような復活によって、わたしたちも神の子たちと明示される過程にあります——ローマ 8:11 :

1. わたしたちが明示され、息子化され、神化される過程は、復活の過程であり、それには四つの主要な面があります。すなわち、聖別、造り変え、同形化、栄光化です——ローマ 6:22. 12:2. 8:29-30。

2. 明示される過程のかぎは、復活、すなわち、内住するキリストです。彼は、わたしたちの霊の中の起き上がる霊、明示する霊、命の力です——ヨハネ 11:25. ローマ 8:10-11. 使徒 2:24. I コリント 15:26. 5:4 :

a. わたしたちが緊急に必要とすることは、どのようにして霊にしたがって歩き、明示する霊を享受し経験するかを学ぶことです——ローマ 8:4, 14. マタイ 14:22-23. マルコ 1:35-38. 詩 62:8. 第 102 篇のタイトル。

b. わたしたちはその霊に触れれば触れるほど、ますます聖別され、造り変えられ、同形化され、栄光化されて、神格においてではなく、命と性質において神となり、キリストのからだを建造し、新エルサレムを究極的に完成します—— I コリント 12:3. ローマ 10:12-13. 8:15-16. ガラテヤ 4:6。

D. わたしたちは命において成長して、造り変えの新陳代謝的な過程を経過すればするほど、ますます神の子たちと明示されます—— II コリント 3:18, 6, 16. 5:4, 9, 14-15. 1:12. 12:7-9 :

1. この新陳代謝的な過程は、召会を建造して、キリストのからだ、神の家とすることです。この事は、神を人の中へと建造し込むことと、人を神の中へと建造し込むことによります——ローマ 12:2. エペソ 1:22-23. 2:20-22。

2. 人性は、神性の中で明示されます。神性と人性はブレンディングされて、一となります。今日、人の子孫であるわたしたちは、神の建造の過程を通して、神性の中で神の子たちとなりつつあります——マタイ 16:18. エペソ 3:16-19. 啓 21:2, 9-10。

3. 神の心の願いにしたがった神のエコノミーと目標は、神ご自身を人の中へと建造し込み、人を神の中へと建造し込むことです。この建造は、新エルサレムにおいて究極的に完成して、大いなる団体の神・人、すなわち、神のすべての子たちの総合計となります——啓 21:7。

4. ある日、この過程は完成します。そしてわたしたちは、わたしたちの霊、魂、体において、神の長子であるキリストと、永遠にわたって同じになります—— I ヨハネ 3:2. ローマ 8:19, 23. 詩歌 764 番 2 節。

E. 神の側では、三一の神は肉体と成って、人と成りました。わたしたちの側では、わたしたちは神化されつつあり、手順を経て究極的に完成された三一の神をもって構成されつつあります。それは、わたしたちが神格においてではなく、命と性質において神とされて、永遠にわたって彼の団体の表現となるためです。これが最高の真理であり、これが最高の福音です。

V. わたしたちは、ライフスタディと、回復訳聖書とそのフットノートを用いることによって、神の永遠のエコノミーに関する最高の真理で構成され、それを普及させる必要があります。これらは命を供給し、真理を解き放ち、聖書の各書を開くためです——ヨブ 10:13. 参照、エペソ 3:9 :

A. 主の回復は、真理の光を回復することです。今日、地上において最も緊急に必要とされるものは、この時代の真理です :

1. ライフスタディと、回復訳聖書とそのすべてのフットノートは、最も有効なかぎであって、聖書をわたしたちに開くものです。これらのものは、聖書に取って代わるものではなく、人々を聖書の中へともたらずものです——使徒 8:26-39。
2. わたしたちは、回復訳聖書の本文とそのフットノートと、ライフスタディを祈りをもって研究するための教科書と考えなければなりません。もしわたしたちがこれらのものを軽々しい方法で単に読むなら、一時的な養いと靈感をいくらか得るだけでしょう。しかしながら、わたしたちが読んだものは、わたしたちの照らされている記憶の中で真理となると、わたしたちにとって常時の、永遠の養いとなります——詩 119:130。
3. ライフスタディのメッセージの意図と目標は、わたしたちが宝を掘り出すための、聖書の真理の「鉱脈を開く」ことです。「わたしは、あなたが何年も費やして入り込む必要がある多くのものを出版してきました」——（長老訓練、第3巻：「ビジョンを遂行する道」、第9章）。

B. 今日、主の回復のためにわたしたちは、翻訳され、解釈され、理解された神聖な真理を普及させる責任を担わなければなりません :

1. 聖書についての正しい理解は、わたしたちの著作の中に集められてきており、これらはわたしたちが神聖な真理を研究し、学び、普及させるためのものです。回復訳聖書とそれに付随するフットノートは、あらゆる場所の聖徒たちが、過去二千年に到達した神聖な啓示の理解の「結晶」です。
2. 主がわたしたちにこれらの尊い真理を与えてくださったのは、わたしたちがクリスチャンに対してだけではなく、未信者に対してさえ、これらの真理を普及させるためです。今日、主が必要としていることは、主を愛し、主に生き、別のことを知らず、ただ主の回復を知る、主の親愛なる無数の聖徒たちが、一つの道を歩み、同じ真理を普及させて、時に応じて主の民に食物を給仕する忠信で思慮深い奴隷となることです。そのとき、わたしたちは主の回復の使命を成就するようになります——Ⅱコリント 5:14-15. マタイ 24:45。
3. 召会の拡張は、真理を普及させることにかかっています。真理だけが人々を服従させ、獲得することができます。今後、わたしたちはみな時間を費やして、神の永遠のエコノミーに関する真理を学び、キリストを人々に供給して、召会を増殖させ、拡大させるべきです——使徒 6:7. 12:24. 19:20。